

中学校

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

特 別 活 動

東京都教職員研修センター

平成 13 年 度

教育研究員名簿（特別活動）

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
第 一 分 科 会	江 東 板 橋 町 田 西東京	深 川 第 五 中 学 校	荒 卷 淳
		赤 塚 第 一 中 学 校	遠 藤 正 樹
		小 山 田 中 学 校	○ 飯 島 知 己
		ひ ば り が 丘 中 学 校	林 宣 之
第 二 分 科 会	文 京 大 田 江 戸 川 府 中	第 三 中 学 校	廣 井 美 保 子
		志 茂 田 中 学 校	○ 杉 尾 泰 子
		葛 西 中 学 校	◎ 高 柳 一 夫
		府 中 第 六 中 学 校	西 誠

◎ 世話人 ○副世話人

(担当) 東京都教職員研修センター指導主事 勝 呂 正 彦

目 次

I	主題設定の理由	2
II	第1分科会 「将来の生き方を自ら探求する力を育てる学級活動の工夫」	
1	副主題設定の理由と仮説	3
2	研究の内容	
(1)	研究構想図	4
(2)	「将来の生き方を自ら探求する力」を育てるために	5
(3)	3年間の指導計画	6
(4)	学級活動の実践と検証	
	実践事例1	7
	実践事例2	10
3	研究のまとめと今後の課題	13
III	第2分科会 「自主的、実践的な態度をはぐくむ、 家庭や地域社会と連携・協力した学校行事の工夫」	
1	副主題設定の理由	14
2	研究の内容	
(1)	研究構想図	15
(2)	学校行事の実践と検証	
	実践事例1	16
	実践事例2	20
3	研究のまとめと今後の課題	24

望ましい集団活動を通して、社会の一員としての「生きる力」をはぐくむ特別活動の工夫

1 主題設定の理由

近年、有効な改善策もないまま増加する少年事件は、多くの国民の共通した問題となっている。そして、最近起きている各事件は、少年たちを取り巻く環境を真剣に考える機会ともなった。現在、学校教育は、不登校、いじめ、暴力行為や少年非行など学校への不適応を含めた生活指導上の諸問題が深刻な状況にある。これらは、生徒たちを取り巻く社会環境、家庭環境などの変質と深く関係している。そこから生じる人間関係の希薄化や自己実現の危機といった状況は、今日の青少年が共通する課題となっている。

今回の特別活動の改訂にあたっては、生徒をとりまく厳しく、また激しく変化していく社会を踏まえ、主体的に「生きる」生徒の育成を大きくとりあげている。これは21世紀に生きる子どもたちが個性を発揮し、社会的な自己実現を豊かに図っていく力を体得することを求めているからである。特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」である。

研究にあたり、私たちは、目標の中の「社会の一員としての」という文言に注目した。これは、特別活動の「望ましい集団活動を通して」という特質を継承しながらも、生徒が学校生活によりよく適応するとともに、学校生活はもとより社会において自己の生き方を主体的に考え、自らの意志と責任をもってたくましく自己実現を図っていく資質や能力を高めること、そして同時に、現在崩れかかっている社会的規範を再認識してもらうことが求められた文言ではないかと思ったからである。

さらに重要なことは、「社会の一員」という視点から、中学校特別活動の内容を見直していくと言うことである。つまり「望ましい集団活動」の在り方を、社会とのかかわりを含めた広い視野から見直し、また「心身の調和のとれた発達」を健全な社会人という視点から、「自主的、実践的な態度」を社会的自立といった視点から考えてみた。そして「人間としての生き方についての自覚」を社会的責任や倫理といった面から考え、実践していくことが今日の特別活動に求められているのではないかと考えた。

そこで、「学級活動」と「学校行事」の2つの内容を「社会の一員として」という視点から研究することにした。

II 第1分科会

副主題「将来の生き方を自ら探求する力を育てる学級活動の工夫」

1 副主題設定の理由と仮説

(1) 副主題設定の理由

中学生は、親への依存から離れ、独立や自律の要求を高めながら、自分の将来における生き方や進路を模索し始める重要な時期である。そのため学習指導要領第4章特別活動 内容(3)で「将来の生き方と進路の適切な選択に関すること」が示されている。しかし、自分の将来を考えるための思考力の発達などがまだ十分でなく、全ての生徒が自ら適切に対処することは難しい。また中学校卒業後に目的もなく定職に就かなかったり、進学しても不登校であったり中途退学をする生徒も増加傾向にある。そこで、保護者や教師などの指導や助言が重要となってくるが、現在の中学校においては最終学年における、進学指導や就職指導が中心になってしまい、特別活動において3年間を見通した計画的な進路指導が出来ていない傾向にある。将来、集団や社会の一員として、自己の個性を発揮していくことが、人間として最も幸福なことの一つであるとともに、社会に貢献することにもなるとすれば、中学校においても、人間としての生き方についての自覚をより一層深めていかななくてはならない。

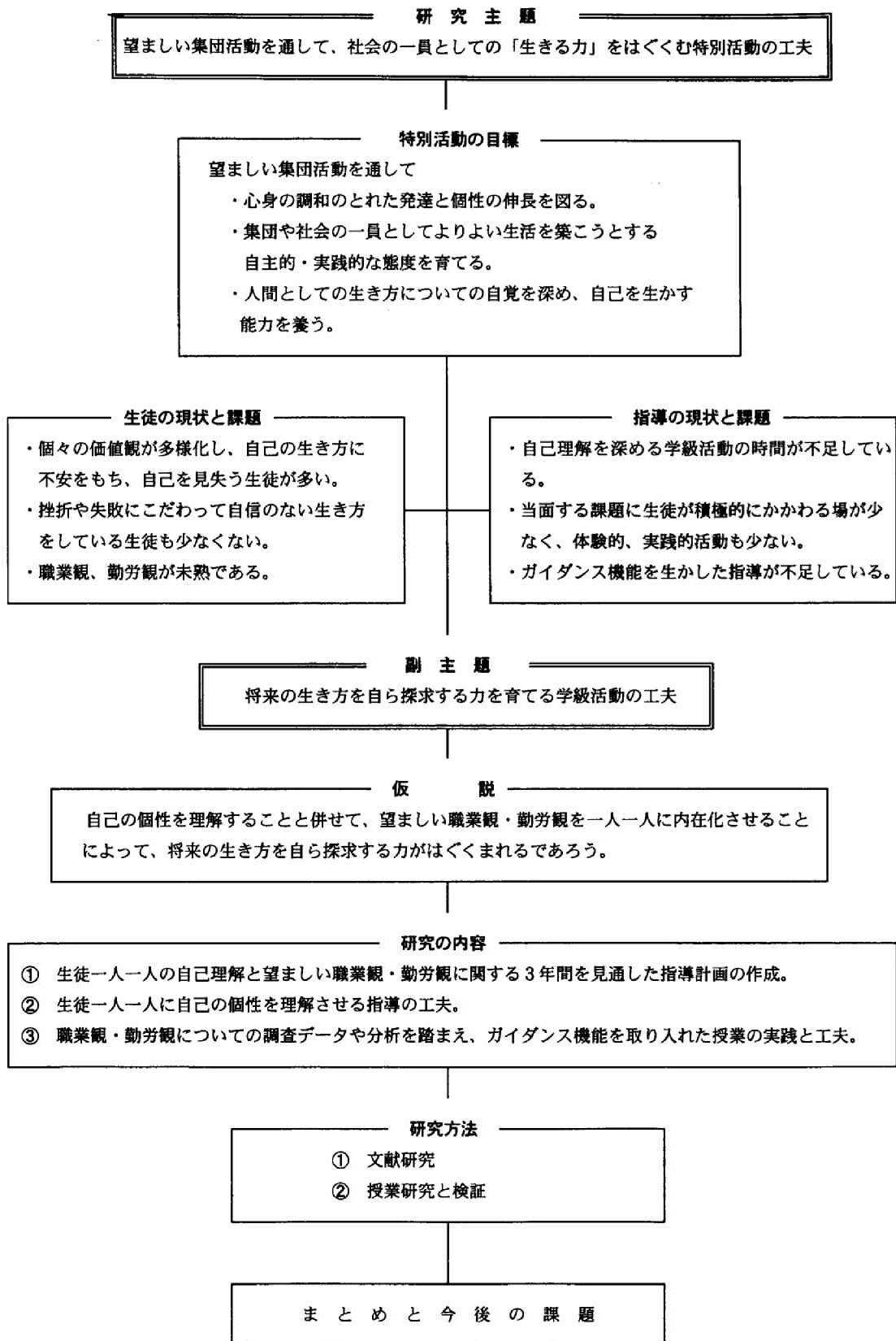
そこで、自己の個性を十分に理解し、将来にわたっての人間としての在り方・生き方を、中学校卒業後もなお主体的に探り求めていく姿勢を育てるような指導の工夫ができればと考え、上記の副主題を設定した。

(2) 仮説 「自己の個性を理解することと併せて、望ましい職業観・勤労観を一人一人に内在化させることによって、将来の生き方を自ら探求する力がはぐくまれるであろう」

学習指導要領解説－特別活動編－において「自己の個性を見つめ、それを大切にしていくことは、自尊感情を高め、自己確立や自己実現を図るための基盤となる」とあるように、自己を理解していくことが、自己実現を目指していく上で重要であることがわかる。また「今日、職業・勤労に対する理解の不足や安易な考え方など若者の職業観・勤労観の未成熟さが指摘されている」とあり、社会において自己実現を可能にするためには、中学校において望ましい職業観・勤労観を生徒一人一人に内在化させていく必要があると考えた。そこで「自己を理解していくこと」と「望ましい職業観・勤労観を内在化させること」の両者を、それぞれ平行して学習し3年間で統合させていくことにより、将来の生き方を自ら探求する力がはぐくまれていくと仮定して研究を進めていくことにした。さらに新しい学習指導要領で指摘されている「ガイダンス機能の充実」を目指した指導計画を工夫した。

2 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 「将来の生き方を自ら探求する力」を育てるために

「副主題の理由」のところでもふれたように、学習指導要領解説では、特別活動の目標に関する記述において「一人一人の生徒は、それぞれ自分の個性を生かせる進路を選び、自己実現を図っていかなければならない」また、「将来において、社会人として、職業人としてあるいは家庭人として自己の個性を十分に発揮していくことは、人間として最も幸福なことの一つであるとともに、社会に貢献することにもなる」と述べられている。

しかし、生徒の現状や課題としては：

- ・個々の価値観が多様化し、自己の生き方に不安をもち、自己を見失う生徒が多い。
- ・挫折や失敗にこだわって自信のない生き方をしている生徒も少なくない。
- ・職業観、勤労観が未熟である。

という点が指摘され、さらに指導の現状や課題としては：

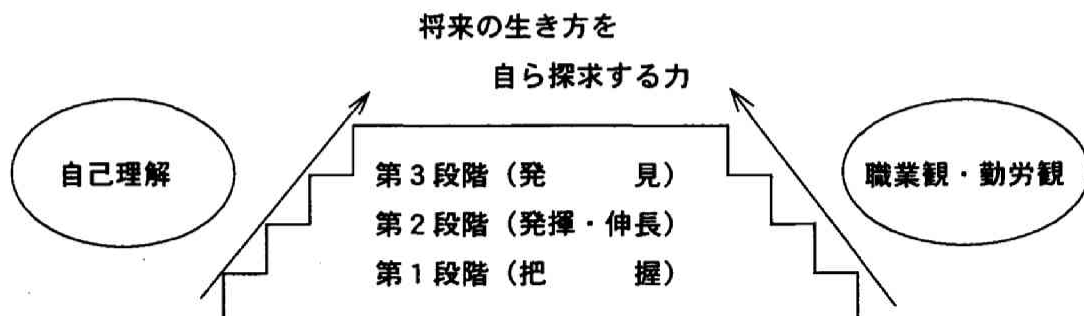
- ・自己理解を深める学級活動の時間が不足している。
- ・当面する課題に生徒が積極的にかかわる場が少なく、体験的、実践的活動も少ない。
- ・ガイダンス機能を生かした指導が不足している。

という点があげられている。

そこで、生徒や指導の現状と課題を十分に検討し、生徒一人一人が、将来の生き方を自ら探求できるよう次の視点から研究することにした。

- ① 生徒一人一人の自己理解と望ましい職業観・勤労観に関する3年間を見通した指導計画の作成。
- ② 生徒一人一人に自己の個性を理解させるための指導と工夫。
- ③ 職業観・勤労観についての調査データや分析を踏まえ、望ましい職業観・勤労観を内在化させるためのガイダンス機能を取り入れた授業の実践と工夫。

「自己の個性を理解させること」と「望ましい職業観・勤労観を内在化させること」を3年間の中で計画的に指導し統合させていくことにより、個性の把握、発揮・伸長、発見がなされ、生徒一人一人に将来の生き方を自ら探求する力がはぐくまれていくであろう考えた。



(3) 3年間の指導計画

	自己の個性を理解させること	望ましい職業観・勤労観を内在化させること	
1 年	<p>中学生になって決意 (基本的な生活習慣)</p> <p>自分を 知る ろう う</p> <p>1学期の反省(創意工夫)</p> <p>2学期の決意(自主・自律)</p> <p>2学期の反省(向上心)</p> <p>3学期の決意 (生命尊重・自然愛護)</p> <p>3学期・1年間の反省</p>	<p>将来の希望と進路の学習</p> <p>働く人々に学ぶ</p> <p>1 働く人々の姿</p> <p>2 働く人たちの仕事と考え</p> <p>3 人は何のために働くのか</p> <p>進路計画を立てよう</p> <p>1 進路計画の必要性</p> <p>2 進路計画の立て方</p>	<p>職業調べ計画</p> <p>職業調べ実施</p> <p>職業調べまとめ・発表</p> <p>講演会「私の生き方」① (実践事例2)</p>
2 年	<p>2年生になって決意</p> <p>自分を振り返る(勤労・奉仕)</p> <p>1学期の反省(思いやり・協力)</p> <p>2学期の決意(寛容・協力的)</p> <p>2学期の反省(責任感) (実践事例1)</p> <p>3学期の決意(公正・公平)</p> <p>健康・体力の向上</p> <p>3学期・1年間の反省</p>	<p>働くことと学ぶこと</p> <p>1 人はどうして働くのか</p> <p>2 自分の可能性を生かそう</p> <p>職業の世界</p> <p>1 職業とは何かを考える</p> <p>2 職業の内容を調べる</p> <p>学ぶための制度と機会</p> <p>1 学ぶ道を調べる</p> <p>2 高等学校・専門学校の内容を調べる</p> <p>(上級学校調査・発表会)</p>	<p>職業体験計画</p> <p>職業体験実施</p> <p>職業体験まとめ・発表</p> <p>講演会「私の生き方」②</p>
3 年	<p>3年生になった決意 (公共心・公德心)</p> <p>自分の進路設計図作成</p> <p>1学期の反省</p> <p>2学期の決意</p> <p>2学期の反省</p> <p>3学期の決意</p> <p>3学期・3年間の反省</p> <p>明るい将来への準備</p>	<p>進路を考える</p> <p>1 先輩の姿に学ぶ</p> <p>2 生き方について考える</p> <p>進路選択にそなえて</p> <p>1 自分を見つめ直す</p> <p>2 進路先を調べる</p> <p>進路の選択</p> <p>1 自分の進路の最終決定</p> <p>2 自分の道を切り開く</p> <p>将来の生き方を 自ら探り求める</p>	<p>先輩からの聞き取り調査 発表会</p> <p>講演会「私の生き方」③</p>

(2) 学級活動の実践と検証

<実践事例1：A中学校>

① 題材名 「責任感について考えよう」

② 題材設定の理由

将来の生き方を自ら探求する力をはぐくむためには、まず生徒が自らの個性や能力・適性等を十分に把握することが大切である。そして、それを適切な場で発揮し、創造的に発展・伸長させることにより、新たな個性や能力・適性を発見していくことができる。しかし、中学生の段階では自分の個性が十分に把握できていないこともあり、個性を発揮することに自信がもてなかったり、発揮する場を逃してしまうことが多く見受けられる。

自分の個性を把握するためには、ほかの人から認められることや他の人の考え方を知る必要がある。このことにより、改めて自分の個性を知り、それを発揮できる場を見つけることができるようになる。

学級活動においても、日常の学校生活や様々な活動を通して他者の個性を把握し尊重することによって、自分の個性をさらに把握することができる。学級の中で、お互いの個性を認め合い、自分の個性を発揮する場を得ることにより、共に高め合える学級を目指し、この題材を設定した。

なお、本実践では「責任感」について取り上げ、それについて深く掘り下げて考える実践を計画した。

③ 指導のねらいと工夫

日ごろの学校生活や学級活動、学校行事等でのお互いの頑張りを認め合う相互評価・相互理解をさせると、多くの項目があげられる。その中から自己の個性をより把握できるようにするために、ひとつの項目に注目させる。また、それを掘り下げて考えることにより、自分の考え方を他者の考え方との比較から自己に振り返らせ、それを日ごろの学校生活だけでなく、将来、社会の一員として生かす場面を考える契機とさせる。

④ 指導の過程

- ア 自己・他者の個性や能力・適性の把握
- イ 自己・他者の個性や能力・適性の把握と発揮
- ウ 自己の個性や能力・適性の発揮と伸長

⑤ 本時の活動のねらい

具体的な場面を設定することで、お互いの考え方を把握し尊重することによって、自己に振り返って自己の個性を発揮できる場面を考えさせる。

⑥ 本時の展開（資料1参照）

⑦ 評価の観点

- ア 設定された場面において、いろいろな行動を考えることができたか。
- イ 設定された場面において、責任ある行動について考えることができたか。
- ウ 自他の比較から、自己について振り返り、考えることができたか。
- エ 自己の個性を発揮できる場面を考えることができたか。

⑧ 検証授業の中で見られた課題

いろいろな行動が挙げられれば、他者の考え方を幅広く知ることができ、自己の責任感がどの程度なのかを考える上でも有効なので、より多くの考えを引き出すような場면을工夫することが課題として挙げられた。

(資料1) 学級指導案

	学 習 内 容	学 習 活 動	評 価 の 観 点
導 入	・相互理解・相互評価の確認	・前時の活動を思い出し、掘り下げる項目を確認する	
活 動 の 展 開	・場面の例示 ※活動の概要をつかむ程度 ・場面の提示 (ピクチャーカード利用) ・責任ある行動について考えさせる	・考えられる行動をすべてあげる →ワークシート記入・発表 ・自分だったらどのように行動するのかを考える →ワークシート記入・発表 ・責任ある行動と自分との比較をし、自己を見つめる	・いろいろな行動を考えることができたか ・自分にとって責任ある行動を考えることができたか
ま と め	・責任感について考える	・今の自分について考える →ワークシート記入 ・今後の自分について考える →ワークシート記入	・自分を振り返って考えることができたか ・自分の個性を発揮する場面を考えることができたか

(資料2) 設定場面の例

<放課後の場面>

放課後の部活動が終わり、下校しようとしたときに、忘れ物に気づき、教室に戻りました。そのときの教室は、机は乱雑で、黒板にはチョークでいたずら書きがされ、あちこちらにごみが散らかっている状態でした。教室の近辺にはあなた以外には誰も人がいません。職員室には何人かの先生が残っていますが、担任の先生はいませんでした。

責任感について考えよう

年 組 番 氏名

どんな人がいるかな？

あなただったら？

どういう行動が責任ある行動なのだろう？

比べてみてどうだろうか？

無責任だったなあ～と思う場面を思い出してみよう

そのときあなたはどうすればよかったと思いますか？

<実践事例2：B中学校>

① 題材名 「保護者、地域の人々に学ぶ会 ～人生の先輩の職業観～」

② 題材設定の理由

将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成する上には、職業・勤労についてどのような考えをもち、どのような職業に就き、どのように職業生活を送るかを考えさせることが重要である。人は職業を通じて社会と深くかかわり生きており、その観点から望ましい職業観・勤労観をはぐくむことは、生き方指導としての進路指導にとって重要な課題である。

望ましい職業観・勤労観を形成するには、職業・勤労に関する実際の体験などを通して、職業を通じて社会の一員としての役割を果たし、自己の能力・適性を発揮しているといった視点から、職業・勤労の目的や意義を理解することが不可欠であるが、現実にはそのような実際の体験が得られる場面は必ずしも設定しやすいとは言い難い。そこで、職業人としての保護者や地域の人々の講話を聴くことによって、職業・勤労に関するいわば疑似体験をさせるという目的で本題材を設定した。

③ 指導のねらいと工夫

保護者や地域の人々の講話を通して、働くことの楽しさや厳しさを知り、職業・勤労についての関心を高めるとともに、職業・勤労の目的や意義を理解させる。とくに講演会の実施にあたっては、お願いの手紙、お礼の手紙、さらに当日の司会進行にいたるまで生徒自身の手による部分を大切に作り上げていく工夫をする。また、指導の過程においても事前に生徒に質問を考えさせたり、その回答を予想させることによって、擬似的ではあるがその職業に従事する人の気持ちになれるように工夫をする。このように生徒が主体的に講演会に参加することによって、職業生活を含めた将来が他ならぬ自分自身の問題であることに気付くことになり、望ましい職業観・勤労観を内在化させる基礎となると考える。

④ 指導の過程

【準備】

ア 職業・勤労についての質問事項を以下の観点から話し合い、まとめる。

- ・ 職業選択の理由
- ・ 働く目的と意義
- ・ 働くことと生きがい
- ・ 働くことの楽しさや厳しさ

イ 上記の観点から作成した質問事項について、自分なりの回答を用意する。

【本時】

保護者、地域の人々の講話を聴き、事前に用意した質問をする。

【事後考察】

ア 保護者、地域の人々の講話を聴いての感想を話し合い、文章にまとめる。

イ あらかじめ用意した自分なりの回答を、実際の回答と比較して、その違いについて考える。

⑤ 本時の展開

- ア 校長先生のお話
- イ 講師の紹介
- ウ 講師からのお話
- エ 質疑応答
- オ お礼の言葉

特別活動の実践という趣旨から、司会進行はすべて生徒の手によるものとする。

⑥ 評価の観点

保護者、地域の人々の話を通して、職業・勤労に対する意識が高まり、自分自身の将来を考える契機となったか。

⑦ 授業を通して得られた課題

講演会を通して得られた生徒たちの感想は概ねこの講演会は自己の職業意識を高める上で役に立ったという肯定的なものであった。(資料2参照) どの生徒たちも熱心に話に耳を傾け自分なりに考えるところがあった様子であった。しかしながら、講演会の構成については、講師の方々の善意による部分が大きいため、必ずしも生徒たちが希望する職業従事者の話が聴けるとは限らない。事前にどのような職業について話を聴きたいかアンケートなどをとっていても、地域の中で人材を確保するのは容易ではない。より生徒たちに関心をもってもらうためには幅広く人材を確保、活用する方法を検討する必要がある。

資料1 生徒から多く出された質問(抜粋)

① 職業一般に関すること

- ・ どうして今やっている仕事に就こうと思ったのですか。
- ・ 仕事を通して、一番つらいこと、一番楽しいことは何ですか。
- ・ 仕事をする上で一番大切なことは何だと思いますか。
- ・ 仕事を始めてから、自分が変わったと思いますか。
- ・ どんな人が今の仕事に向いていると思いますか。
- ・ 仕事に対してどのような努力をしましたか。また、気をつけることは何ですか。
- ・ 今の仕事を自分の子どもにやってほしいですか。
- ・ 初めてもらった給料をどう思いましたか。
- ・ 中学生の頃の夢は何でしたか。
- ・ 就きたい職業は、中学生のうち決めておかなければならないと思いますか。

② 個別の職業に関すること

- ・ 子ども相手の仕事で学んでよかったことなど、子育てに役立っていることは何ですか。
(保母)
- ・ デザインがうかぶ時はどのような時ですか。(デザイナー)
- ・ 親の介護は誰がするべきだと思いますか。(介護福祉士)
- ・ 医師になるのに、どんな方法でどのくらい勉強しましたか。(医師)
- ・ レジをうつのに免許はいるのですか。(店員)
- ・ 大工と建築士はどう違うのですか。(建築士)

資料2 生徒の感想（抜粋）

- ・ 職業のことについてやその人の中学生時代のことなどがいろいろわかってよかったです。この講演会でいろいろなことがわかって、また職業について悩む種となったけど、楽しくとてもおもしろかったです。
- ・ いろいろな職業を転々とやってきて自分に合う職業に出会えた人、ほぼすんなり決まった人、さまざまでした。私は趣味を考えた職業に就きたいので、「何か一つ好きなことを見つけて楽しみながらやってほしい。」という教訓が一番印象に残りました。
- ・ いろいろな仕事があるけれど、どの仕事も苦勞して初めてうれしいことや、つらいことを感じられるんだなと思いました。今、自分の将来についてはあまり考えていないけれど、この講演会を通して少しずつ将来のことを考えたいです。
- ・ 講演会が終わって一つ気付いたことがあります。どの人も自分の仕事に誇りをもっていました。また、患者さんから学ぶこともあったり、介護している側なのに自分が癒されたりしているなど、他の人から学ぶことがあるなんて思ってもいませんでした。
- ・ 仕事にはそれぞれ社会の役目というものがあることがわかりました。一つ一つの仕事がとても大切だということもわかりました。
- ・ 仕事の大切さや大事なことを知りました。お話を聴いているうちに、仕事って人には大切だからこそやらなくてはいけないことだと思いました。私は自分でできる仕事を見つけようと思います。
- ・ 講師の「一生修行する。」という言葉が印象に残りました。職業のことだけではなく、これからの生き方について考えることや知ることができました。
- ・ ほとんどの職業で共通していることは、うれしかったりよかったと思うことが、自分のやった仕事を喜んでもらえたり、ほめられたりした時だということでした。全部の職業の人が、いろいろな苦勞をしてがんばっているんだなということがよくわかりました。

資料3 講師の感想

先日はとても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。講演なんてするつもりもなく、出席に○をしましてこのようなことになり、前夜までとても緊張して、手にメモをしたり夜中までどんな話をしようかと悩んでいたのに、当日頭の中が真っ白になり、行き当たりばったりの話になってしまって大変申し訳なく思うとともに自己嫌悪になってしまいました。ところが、生徒のみなさんから思いがけず心のこもったお手紙を多数いただき本当にうれしく思っています。何度も何度も読み返し、あんなつたない話に真剣に手紙を書いてくれたことに本当に感謝しています。元気しか取り柄のない私の話、いろいろなことを感じ取ってくれて、逆に励ましてもらったような気持ちでいっぱいです。本当なら手紙をくれた一人一人に私から返事を書かなければいけないし、質問にもお答えしなければいけないと思っているのですが、何かと忙しい時期に入っしまい思うようにできません。また、何かの機会があればぜひみなさんと話し合いたいと（一方的に話をするのではなく）思っています。話を聴いてくれた一年生のみなさんに心から感謝するとともに、お手紙を何回もうれしく読ませていただいていますとお伝えください。先日は本当にありがとうございました。

3 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究は、「自己を理解すること」と「望ましい職業観・勤労観を内在化させること」の両面から3年間の指導を行い主題に迫ろうとした。そして、それぞれの実践における主題に迫るための工夫をまとめると以下の通りである。なお、「自己を理解すること」に関して、「個性」をよりとらえやすくするために、いくつかの項目に分けて考えることにし、その項目は生徒指導要録「行動の記録」の項目に対応させた。

実践事例1

- ア 「個性」をとらえやすくするために、多くの項目ではなくひとつの項目に注目しそれを掘り下げて考える実践とした。
- イ 自己・他者お互いの考え方を比較し自己を振り返るだけでなく、生活の中で発揮する場面まで考える過程とした。
- ウ 誰もが学校生活で起こりうる場面を設定することにより、身近な問題であることを意識させた。

実践事例2

- ア 職業がより身近なものであるという意識をもたせるために、保護者や地域の人々を講師に招いた。
- イ 質問を考えるだけでなくその答も予想させ、職業に対する擬似的体験になるようにした。
- ウ 企画・立案から運営・進行まで生徒が行った。

これらの実践の成果を挙げると、実践事例1では、自他の比較を通し自分自身の個性をより深く考えることができたこと、そして学校生活だけでなく社会の一員として個性を生かす場面を考える契機となったことである。実践事例2では、講演会に参加することで職業・勤労に対する関心が高まりその目的や意義を考えるようになったこと、また生徒自らの企画・立案、運営・進行により、より一層意識が高まったことである。

(2) 今後の課題

今回の研究を通し次のような課題が出てきた。実践事例1では、設定された場面で挙げられる行動が少ないと自他の考え方の比較が広がらないことが分かった。考え方の幅を広げるためにはさまざまな行動を考えさせる場面を設定することが必要である。実践事例2では、生徒の希望する職業に従事している人を講演者とすることでより積極的な態度で臨むことができる。そのためには講演者の人材確保に当たっての工夫をさらにしていくことが重要である。

そして、本研究では「自己を理解すること」「望ましい職業観・勤労観を内在化させること」の両面から主題に迫ろうとしたが、今後は両面を有機的に統合させて主題に迫るために、自己理解を深化させ、望ましい職業観・勤労観を内在化させる3年間を見通した具体的な指導計画を作成することが課題である。

Ⅲ 第2分科会

副主題「自主的、実践的な態度をはぐくむ、家庭や地域社会と連携・協力した学校行事の工夫」

1 副主題設定の理由

学校行事は、その特質から、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動である。この体験的な活動がその過程において、生徒の創造力を高め、人間形成に役立てることができるものである。学校行事は全校又は学年を単位として活動することが多いが、より大きな集団、すなわち、家庭や地域の人々との交流を盛り込んだ内容を企画・実践することが大切である。それによって、様々な人々との交流や社会体験をし、他者を尊重する態度、社会生活上のルールやマナー、望ましい集団行動の在り方など、集団生活や社会生活に必要な基本的な態度や行動様式を身に付けることができるからである。その結果、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度がはぐくまれる。

しかし、生徒の現状はなかなか体験的な活動の場が少なく経験に乏しい面があり、上記のような態度や行動様式を身に付けていくのが難しい。また各学校の現状でも、このような学校行事の企画・実践に苦勞し、目的の達成にまだ不十分な面がうかがえる。そこで、より家庭や地域社会と連携・協力することによって、「なすことによって学ぶ」学校行事の効果をさらに高めていく工夫をしていくことが重要である。また、家庭や地域社会と連携・協力することは「特色ある学校」や「開かれた学校」づくりにもなると考え、本副主題を設定した。

2 家庭や地域社会との連携・協力することの重点

家庭や地域社会と連携・協力することの重要性は前述の通りであるが、従来からの学校教育の課題であり、どの学校においても工夫してきている。しかし学校行事という場面では、ただ単に“家庭や地域の人々を招く”程度のもも多い。そこで、われわれ研究部会では学校行事という教育活動のなかで、この課題を次のような観点に分類して考えてみた。

(1) 地域の特性を活かす

- ・地域の環境を活用する
- ・地域の人材を活用する
- ・地域の施設、設備を活用する

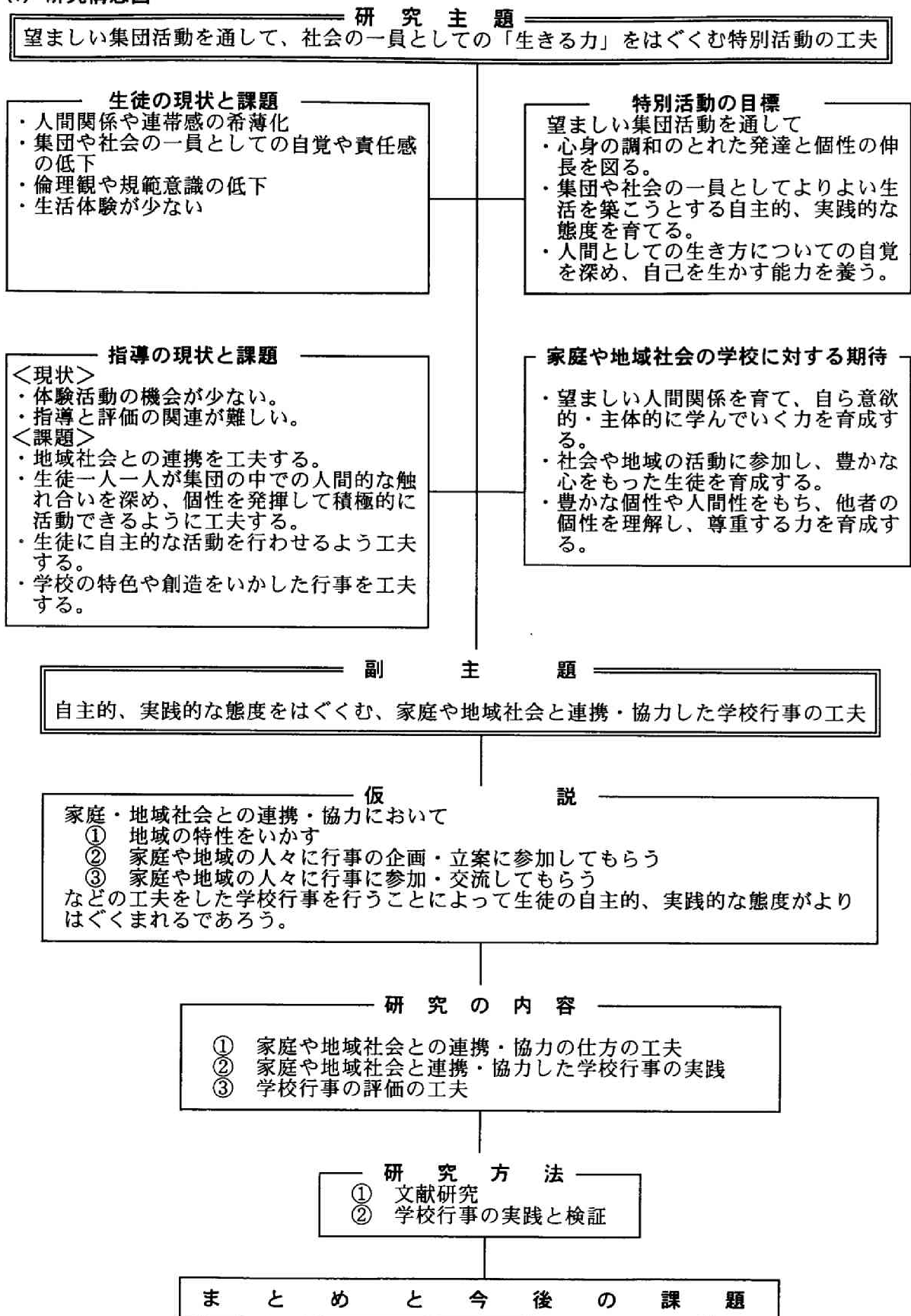
(2) 家庭や地域の人々に行事の企画・立案に参加してもらう

(3) 家庭や地域の人々に行事に参加・交流してもらう

このような観点をできるだけ取り入れるには、行事によってはその準備や検討の段階で多くの時間が必要である。また、これらの観点は時代や社会の変化と共に変わっていくものである。しかし現時点で、学校行事の目的をより効果的に達成するために、これらの観点をできるだけ取り入れていくことは大切である。われわれ研究員の所属する学校現場でも、今年度の学校行事の実践にこれらの観点を取り入れられるよう、いくつかの工夫を試みた。さらにその行事の取り組みの中で、生徒が自発的に活動し、より深い体験活動になることを配慮した。

2 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 学校行事の実践と検証

〈実践事例1：A中学校〉保護者や地域の人々と連携したレクリエーション

本校では、平成11年度より、「〇〇〇の日」と名付けられた、多摩川の緑地公園で1日レクリエーションをする学校行事が行われていた。学校の耐震工事期間中に、日頃校庭を自由に使用することが出来にくい状況のため始まった行事である。

午前、午後の部に分かれ生徒は学級、学年の枠をはずし、レクリエーションの種目を自由に選択することができる。

そこで今年度は、保護者や地域の人たちと連携してレクリエーションを行う行事にした。このことにより、生徒が自ら企画し実践し地域の施設を活用し、地域の人々との交流を通して、生徒が自分のよさや可能性を生かした充実感を味わうことができ、自主的、実践的な態度をはぐくむことにつながると考えたからである。

(1) 活動計画（*は今年度よりの試み）

- 活動内容検討 今年度の活動内容を検討する。
- *保護者、地域の人々への働きかけ 今年度の趣旨・内容を説明する。
- *全校生徒にねらいと活動内容説明 ねらい・活動内容等の確認をする。
- 希望種目アンケート 生徒の希望種目を調査する。
- 希望種目アンケート集計
- 参加種目決定
- 事前説明 種目ごとに運営方法等の説明をする。
- *生徒会新聞での広報活動 生徒への意識づけを行う。
- *保護者、地域の人への連絡、協議 参加種目等の確認をする。
- 事前準備 前日準備、当日の最終確認を行う。
- 実施
- *事後アンケート（生徒、保護者・地域の人々）昨年との比較などを検証する。
- *アンケート集計
- *評価 改善の方策などをまとめる。

(2) 実施要項

① 目的

- ア 一日多摩川緑地公園で過ごし、英気を養う。
- イ 地域の自然や施設及び人材を活用し、豊かな人間性や社会性の育成を図り生徒の自主的、実践的な態度をはぐくむ。
- ウ レクリエーションを通し互いの親睦を深め、レクリエーションの意義や参加の態度を学習する機会とする。

② 場所、使用施設

多摩川緑地公園 [区民広場、自由広場、サッカー場（1面）、野球場（6面）]

③ 時程

9:00	自由広場 集合 (時間厳守)
9:00~9:30	出欠確認 校長挨拶 地域の人々の紹介 諸注意 用具貸し出し
9:30~11:30	レクリエーション1部
11:30~12:30	昼食 (自由広場に集合、点呼)
12:30~14:30	レクリエーション2部
14:30~15:00	自由広場 集合、点呼 校長講評 地域の人々のお話 諸連絡
15:00	解散
15:00~15:30	ボランティア活動 (生徒会及び有志)

④ 実施内容

- ・ 学年の枠をはずし、レクリエーションの種目は生徒の自由選択とする。
- ・ 活動場所及び種目は次の通りとする。
 - ① 野球場 野球
 - ② サッカー場 サッカー
 - ③ 区民広場 バレーボール、バドミントン、ドッチボール等の運動系の活動
 - ④ 自由広場 ゲーム、読書、写生、たこ揚げなどの活動
 - ⑤ 池 釣り
- ・ 必要な用具は、原則として各自で持参する。
- ・ (学校で用意する用具) サッカー用ゼッケン サッカーボール2個 バレーボール10個
ラインカーと石灰 ベース キャッチャーマスク6個
- ◎ 地域の人々と一緒にチームを組んで、それぞれの種目を行う。
- ◎ 釣り、たこ揚げなど、地域の人に教えていただく。

⑤ 諸注意

- ・ 昼食時間は活動しない。(特にバットを使用しての野球・釣りなど)
- ・ 活動場所を離れ、勝手に帰宅したり、他の場所に行かない。
- ・ 活動種目は、自由広場と区民広場については、④で挙げたもの以外にも可能であるが、危険なもの(ゴルフ、野球場以外でのバットの使用など)は行わない。

(資料1)

〇〇〇の日アンケート

- 1 あなたは 年 組 性別 ()
活動した種目・・・(参加したコースの記号に○をつける)

ア 野球 イ ソフトボール ウ サッカー エ 釣り
オ 写生 カ バレーボール キ バドミントン
ク カードゲーム ケ 読書 コ たこあげ
サ その他()

- 2 〇〇〇の日は楽しかったですか。
はい いいえ (どれかに○)
- 3 どのような点が楽しかったですか。(該当するものに、いくつでも○をしてください)
ア 好きなことをして過ごすことができたから
イ 学校を離れて多摩川緑地公園で行ったから
ウ 他学年の人たちと一緒に活動することができたから
エ 日頃あまり話したことのない人と話げできたから
オ 地域の人々と一緒に活動することができたから
カ 地域の人々に教えていただいたから
キ 自分の個性を発揮することができたから
ク 自分のよさや可能性に気付くことができたから
ケ その他()
- 4 〇〇〇の日を通して、やってよかったと思うことがありますか。
ア ある イ ない
・あれば、どのような点ですか。(どちらかに、○をしてください)
ア のびのび・・・・・・・・・・できた できなかった
イ 地域の人たちとの交流が・・できた できなかった
ウ 友だちや他学年の人たちとコミュニケーションが・・とれた とれなかった
エ 地域の施設(緑地公園)を活用し、1日を有効に・・過ごせた 過ごせなかった
オ 地域の一員としての実感が・・・・・・・・・・もてた もてなかった
- 5 〇〇〇の日は、他学年との交流を深めたり、地域の人々との交流をするために有効な行事だと思えますか。
はい いいえ
- 6 〇〇〇の日を通して、感じたことを書きましょう。

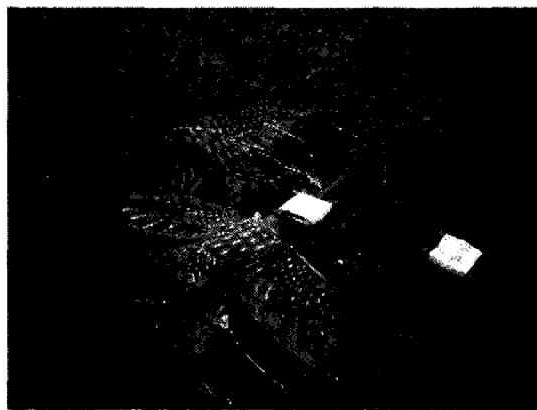
(3) まとめ

〈生徒のアンケートから〉

- ・友だちとたくさん話せたり、普段あまり見たことのない釣ったばかりの魚を見ることができたり自然に触れあえる。とにかくたくさん（違うクラス）の人と遊べたり、地域の人々と触れ合ったりすることができ、授業とは違う雰囲気でもよかった。来年もやりたい。
- ・みんなでいろいろなことを学校とは違うところでできるのがいいと思う。普段あまりかわれない地域の人たちと話す機会ができて楽しかった。土手で中学校生活のひとつきを過ごすのもよいと思う。
- ・学校ではないところで人と会話したり、遊んだりするので普段より交流ができてよかったと思う。地域の人と会話したり何かをしたりすることが初めてだったので、いろいろなことが勉強になったと思う。1日中授業をするのではなく、スポーツをしたりして、体を動かすので新鮮な1日になった。
- ・とんびだこを揚げるというのは初めての経験でした。簡単に揚げられると思っていたけど、実際はむずかしいと感じました。たこが落ちてくると糸を引いて、風がくると糸を出したりして、調整しました。少したこから目を離すと落ちてしまいます。でも、たこ揚げはとても楽しく、今度はたこの作り方を教えてもらいたいと思いました。
- ・まず一番に「とんびだこ」を揚げられたことに感動した。見たことはあるけど、実際自分で揚げたことはないのでもうれしかった。地域の人たちとの交流も初めての体験ですごく楽しかった。
- ・地域の方たちにたこ揚げを教えていただき、あまりうまく揚がらなかったけれど、とてもおもしろかった。



(地域の人々にたこ揚げを教えて
いただいている様子)



(とんびだこ)

〈実践事例2：B中学校〉地域の人々と連携して取り組む地域清掃活動の工夫

B中学校では、「クリーン作戦」と名付けた地域清掃活動を、年間2回実施している。そこで、この活動を家庭や地域の人々と連携し工夫することにより、生徒一人一人が学校や地域の一員であることを自覚し、より良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度がはぐくまれるものと考えた。また、ボランティア活動の意義を考える機会にしたいと考えた。

(1) 指導の工夫

- ① 実行委員会が「地域清掃活動」の内容や意義について考える
 - ② 実行委員会が中心となり企画・準備を進める
 - ③ 実行委員会が専門委員会や一般生徒、保護者に参加を呼びかける
- * 「クリーン作戦」実行委員会は生徒会を中心とした生徒組織とした

(2) 活動計画

- ① 実行委員会 活動内容とねらいについて考える
- ② 活動内容
 - ア 清掃場所の検討
 - a 地域の人たちの意見を聞く
 - b 清掃場所の実施踏査をする
 - イ 清掃用具や服装の検討
 - a 必要な清掃用具と個数
 - ウ 参加希望調査用紙、清掃後のアンケートを作成する
 - エ 「クリーン作戦」当日の時程を作成する
- ③ 広報活動
 - ア 実行委員会が、「クリーン作戦」のねらいと活動内容を説明する
 - イ 新聞、全校朝礼、お昼の放送を利用して参加の呼びかけをする
- ④ 参加希望調査
 - ア 一般生徒の参加と不参加を調査し集約する

* 保護者の参加希望調査の集約は、PTA役員に依頼する
- ⑤ 美化委員会(専門委員会)と連携する
 - ア 集計した参加人数から、グループ分けと清掃場所の割り振りを行う
 - イ 前日準備
- ⑥ クリーン作戦の実施
 - ア 活動の様子を写真撮影し、記録として残す
 - イ クリーン作戦終了後、生徒と保護者に事後アンケートをしてもらう
- ⑦ 実施後の活動
 - ア 事後アンケートの集計とその結果を新聞に掲載する
 - イ 次回の「クリーン作戦」のための反省点や改善点をまとめる

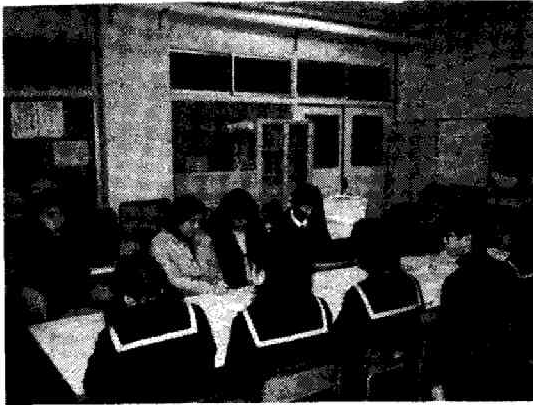
(3) 活動に対する評価

- ① 生徒会役員が中心となって取り組めたか
- ② 参加した生徒が、この「クリーン作戦」を通して地域の美化環境を考える機会となったか
- ③ 今回の地域清掃を通して、生徒一人一人が地域の一員であることを自覚できたか
- ④ ボランティア活動を考える機会となったか

(4) 実行委員会が考えた実施要項案

清掃活動の目的	・・・地域の清掃活動を通して、自分たちの住んでいる町の環境美化を考える
日 時	・・・平成 ○年 ○月 ○日(○) 11時30分～
清掃場所	・・・学区をおよそ15ブロックに分け、特に歩道や公園などを行う * 今回は、地域の人々と話し合い清掃場所を考えていく
参加者募集	・・・① 朝礼や生徒会新聞、そして各クラスで行う短学活を利用して ② 学級委員から呼びかけをしてもらう ③ 保護者の参加募集はPTA役員の人たちに依頼する ④ 参加人数の確認のための参加調査票をつくる
清掃方法	・・・① 各グループ毎に清掃場所に移動し、ごみ拾いやほうきを使った清掃を行ってもらう ② 集めたごみは学校に持ち帰り分別する * 分別されたごみは清掃局が、無料で引き取ってくれる
持ち物と服装	・・・持ち物：軍手(各自で用意) ビニール袋 ほうき ちりとり 服装：体育着
当日の流れ	・・・① 体育着に着替え、下校の用意をして体育館に集合する ② 清掃活動についての諸注意・連絡をする * 荷物は体育館に置く ③ 清掃場所に移動し清掃を行う ④ 分別したごみは学校に持ち帰る ⑤ 下校後、アンケート用紙に記入する ⑥ グループ毎に保護者も交えて簡単な反省会を行う

(5) 活動の様子



地域の人々との話し合い



清掃場所の実施踏査

(6) 感想

【地域の人】

- 地域をみると、自宅の周辺は比較的良好に清掃されているが、車道沿いの歩道や植え込み、所有者がわからない空き地や駐車場にはごみが多く、ほとんどが清掃されないままの状態になっている。どうしたらよいかと地域でも考えている
- B中学校で行っている「クリーン作戦」をもっと地域の人に知らせたらどうだろうか。地域の人の中にはこの行事の趣旨に理解を示し、共に地域清掃をしてくれる人も出てくるのではないだろうか。また、生徒と同じ清掃区域で行わなくとも、その時間帯に自宅から出て、近所の清掃を始める人があらわれるかもしれない。知らせる方法として、町内会で使っている掲示板や回覧板などがある。
- こういう活動を通して、学校・地域の人と共に自分たちの住んでいる町の環境を考える機会となればよいと思う。
- 学校で栽培した植物をプランターに移し、道路沿いを飾るのも地域社会にとってはとてもよいことにつながるのではないかなと思う。

【実行委員】

- 実際に下見をしてみて、家の周辺はごみも少なくよく清掃されていることがわかった。しかし、それとは対照的に道路沿いの植え込みには、いろいろなものが捨てられていた。中にはずいぶん長い間放置されているものもあり驚いた。
下見を通して、私たちが住んでいる町が少しだけ身近なものに見えた。
- 自宅周辺は、個人の責任区域みたいなどころがあり、清掃がよく行き届いているが、道路沿いなど公道ではほとんど清掃されていなかった。
- B中が行う「クリーン作戦」が、少しでも地域の人に知ってもらえるとよいと思った。
- 清掃活動だけではなく、美化ポスターやプランター(植物)を使った美化活動もこれから考えていきたいと思った。
- 道に落ちているごみにも自然と目がいき気になるようになった。

「クリーン作戦」に参加して アンケート

平成13年 月 日()

1年 2年 3年 性別 ()

1. クリーン作戦に参加した理由を教えてください。

ア 前回も参加したから

イ 以前から道に落ちているごみが気になっていたから

ウ 以前からボランティア活動に参加したみたいと考えていたから

エ 友人に誘われたから

オ その他

2. どのようなごみが多く落ちていましたか。落ちていた場所も書いてください。

3. 今回の清掃区域以外で、次回はこのような場所も清掃してはどうかと思うところがありましたら書いてください。

ア 特にない

イ ある（下線部にその場所を書いてください）

4. クリーン作戦への意見・感想を書いてください。

5. 「クリーン作戦」も含め、機会があればいろいろなボランティア活動に参加したいと思いませんか。

はい

いいえ

わからない

*短時間の清掃活動でしたが、私たちの住む町がいくらかはきれいになったのではないかと思います。ご協力ありがとうございました。

3 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

今回の研究では、家庭や地域社会と連携・協力することにより学校行事の目的をより効果的に達成することに重点を置いた。実践例の学校においては、昨年度までの行事にいくつかの工夫をした。具体的な工夫は次の通りである。

- 実践事例1 ア 広報活動など、生徒を中心に活動した
イ 家庭や地域の人々に協力してもらった
・PTAや社会教育課などと連絡をとり、行事の企画に協力してもらった
・行事に参加してもらった（一部は指導者として）
- 実践事例2 ア 生徒が地域の清掃状況を調べ、活動の候補地を決定した
イ グループ分けなどの準備で、実行委員会を中心に活動した
ウ 行事後も地域の美化活動に生徒のアイデアを取り入れた

これらの実践の成果を挙げると、まずどちらの例も生徒は普段の学校生活とは違う集団で活動をし、そのなかでルールやマナーを守り、家庭や地域の人々との交流も経験することができていることである。この経験は生徒が所属する様々な集団の中で生かされていくものである。特に実践例1では、施設を活用するという地域の特色を生かすため、生徒は各自の希望に沿った活動の充実感がより増している。また実践例2では、生徒は自分の住んでいる地域に目を向け、様子をよく知る機会を得た。また、清掃活動後の地域環境の美化にかかわる意識を大切にしていけるアイデアも、今後のこの行事の成果を深めていく上で大切である。

これらの成果は将来にわたっても、生徒が地域社会のなかで、社会の一員としての自覚を高め、集団生活や社会生活をしていく上での大切な要素である。次に挙げるような課題はあるものの、既存の学校行事にこのような工夫をしていくことは自主的、実践的な態度をばぐくむ上で重要だと思う。

(2) 今後の課題

今回の研究を通して次のような課題がでてきた。

- ア いかにか人材を確保するか
イ 継続的に参加してもらうための工夫
ウ 参加者の意見を受け容れられる柔軟性

アについては、平日に行われる学校行事のため残念ながら参加者が減ってしまった。また、希望する技能をもっている人材を探すということも、容易ではない。地域によっては人材の登録制度を設けているところがあるが、連携をとりやすくするためには、より充実したシステムが必要になってくると思われる。イについては、参加者に負担がかかるだけの内容であれば、継続的な協力は得られないであろう。ボランティアの参加であれば特に「参加して良かった」という印象をもたせるような魅力ある内容にしたい。ウについては家庭や地域の人々の意見にできるだけ柔軟に対応できるようにしたい。そして教員が開かれた学校づくりのために地域に目を向けるということも大切である。学校行事精選の中で新たに家庭や地域社会と連携をとる学校行事を行うことは容易ではないが、既存の学校行事を工夫することによって目的をより効果的に達成できる。そのために実践を重ねていくことが今後の課題である。

平成13年度教育研究員研究報告書

【東京都教育委員会印刷物登録
平成13年度 第41号】

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン